


 平成29年度(第72回)文化庁芸術祭  
 オープニング・オペラ公演

 新国立劇場 開場20周年記念公演  
 新国立劇場 2017/2018 シーズンオペラ オープニング公演  
 ワーグナー 楽劇「ニーベルングの指環」第3日

# 神々の黄昏

【新制作】

## Götterdämmerung

 2017年10月1日(日)~17日(火) 会場:新国立劇場オペラパレス  
 【6月18日(日)前売開始】


### 圧倒的なカタルシス！指環を巡る壮大な物語がいよいよ完結

新国立劇場開場 20 周年記念となる 2017/2018 シーズンは『神々の黄昏』で開幕します。  
 飯守泰次郎指揮、ゲッツ・フリードリヒ演出で 3 シーズンにわたり新制作上演している「指環」がいよいよここに完結！  
 ハーゲンの策略によるジークフリートの死、ブリュンヒルデの自己犠牲と世界の救済、  
 そして神々の終焉が巨大な管弦楽で圧倒的な迫力を持って描かれた大作。

### グールド、ラング、そしてマイヤー！ドリームキャストによる『黄昏』

ジークフリートはこの「指環」シリーズで主要テノール 4 役出演という偉業に挑んでいるグールド。  
 ブリュンヒルデにはワーグナー歌手として絶頂期にあり世界各地で活躍するラング。  
 ハーゲンは 2016 年『ワルキューレ』フンディング役で鮮烈な印象を残したパーゼンドルファー。  
 そしてヴァルトラウテはオペラ界の頂点に君臨し続ける名歌手マイヤーです。  
 新国立劇場のオーケストラピットに初めて入る読売日本交響楽団の演奏、  
 新国立劇場合唱団の迫力ある歌唱にもご期待ください。

★本演目は新制作ですが、フィンランド国立歌劇場(ヘルシンキ)の協力により上演されます。  
 フィンランドで上演された舞台写真を宣材としてご提供できます。

＜資料・写真のご請求、ご取材のお問い合わせ＞  
 新国立劇場 制作部オペラ 広報担当 滝本 香  
 Tel:03-5352-5733/Fax:03-5352-5709  
 E-Mail:takimoto\_k1632@nntt.jac.go.jp

平成29年度(第72回)文化庁芸術祭オープニング・オペラ公演  
新国立劇場 開場 20 周年記念公演  
新国立劇場 2017/2018 シーズンオペラ オープニング公演  
ワーグナー 楽劇「ニーベルングの指環」第3日

# 神々の黄昏

初演: 1876 年 8 月 17 日 / バイロイト祝祭劇場  
作曲・台本: リヒャルト・ワーグナー (1813-1883)

## 圧倒的なカタルシス！指環を巡る壮大な物語がいよいよ完結

2015/2016 シーズンからスタート、3 年がかりで全 4 作を上演する新国立劇場の大型プロジェクト「ニーベルングの指環」。新国立劇場開場 20 周年記念となる 2017/2018 シーズンは、その掉尾を飾る名作『神々の黄昏』で開幕します。世界を支配する野望が潰えて神々が滅亡してゆくさまが描かれ、ワーグナーのこの巨大な楽劇の全容が明らかになります。「指環」四部作がいよいよここに完結します。

『神々の黄昏』は、ハーゲンの策略によるジークフリートの死、ブリュンヒルデの自己犠牲と神々の終焉、そして世界の救済が巨大な管弦楽で圧倒的な迫力を持って描かれた大作です。ドイツの巨匠ゲッツ・フリードリヒの演出は、独特の洞察で登場人物の内面を浮き彫りにし、「指環」のドラマに観客を無理なく引き込みます。指揮は前 3 作に続き、日本におけるワーグナーの第一人者である飯守泰次郎オペラ芸術監督が務めます。「ジークフリートのラインへの旅」「ジークフリートの葬送行進曲」「ブリュンヒルデの自己犠牲」など聴きどころも多数です。

## グールド、ラング、そしてマイヤー！ドリームキャストによる『黄昏』

ジークフリート役は、世界的なヘルデンテノールのステファン・グールド。この「指環」シリーズでは主要テノール4役——『ラインの黄金』ローゲ、『ワルキューレ』ジークムント、『ジークフリート』『神々の黄昏』ジークフリート——として出演という偉業に挑んでいます。

ブリュンヒルデ役にはワーグナー歌手として絶頂期にあり世界各地で活躍するペトラ・ラング、ハーゲン役には同役をバイロイト音楽祭でも歌い、2016 年『ワルキューレ』ファンディングで鮮烈な印象を残したアルベルト・ペーゼンドルファーを迎えました。オペラ界の頂点に君臨し続ける名歌手ヴァルトラウト・マイヤーが、ヴァルトラウテ役で出演するのも大きな話題です。世界でも最も旬のワーグナー歌手が勢揃いしての上演です。

新国立劇場のオーケストラピットに初めて入る読売日本交響楽団の演奏、新国立劇場合唱団の迫力ある歌唱にもご期待ください。

## ■『神々の黄昏』～世界の終焉、そしてその後の救済の暗示～ 新国立劇場オペラ芸術監督 飯守泰次郎

『神々の黄昏』は、これまでの『ラインの黄金』『ワルキューレ』『ジークフリート』で種が蒔かれて発展・成長してきたすべてを刈り取る物語であり、ひとつの世界が終焉に至るさまを描いている作品です。上演時間も正味で4時間半という未曾有の規模に到達し、巨大な四部作の結末が導き出されます。

冒頭の、3人の運命の女神ノルンの場面からすでに、世界は絶望的であることが感じられます。続く「夜明けとジークフリートのラインの旅」は、コンサートでもよく演奏される場面です。その後の出来事を予感していないジークフリートとブリュンヒルデの二重唱は愛と幸せに溢れ、『神々の黄昏』におけるほとんど唯一の肯定的な音楽です。しかし、ここで二人が離れることが、取り返しのつかない運命への旅立ちとなるのです。

## 報道用資料

旅立ったジークフリートは、騙されて魔酒を飲み、ブリュンヒルデとの愛を忘れてしまいます。以降、この大作の舞台は、邪悪な陰謀、欲望、策略、欺瞞、反目、裏切り…そして復讐、殺人、破壊、といった否定的な内容で埋めつくされます。憎悪と暴力で世界を支配しようと企てたアルベリヒの息子である、ハーゲンという最も恐るべき人物が登場します。ハーゲンはアルベリヒと違って憎々しいほど落ち着き払い、周囲の誰もが彼に操られて破滅へと向かうのです。

神々の長ヴォータンは、もはや『神々の黄昏』には登場しません。神々の側からの最後の努力は、第1幕でブリュンヒルデの岩山にやってくるヴァルトラウテです。ワルキューレの一人であるヴァルトラウテは、神々の滅亡の不安に駆られ、指環をラインの乙女に返すよう迫りますが、神性を失って愛のみに生きるブリュンヒルデには彼女の懇願が理解できず、物語は世界の終末へと加速していきます。

謀略に陥れられたジークフリートはブリュンヒルデを裏切り、ブリュンヒルデは愛ゆえの盲目の怒りに猛り狂って彼の弱点をハーゲンに教えてしまいます。恐ろしいほどに人間が変わり果て、ついに英雄ジークフリートはハーゲンに殺されてしまいます。これらはみな『ラインの黄金』で蒔かれた種から生じたことなのです。誰かが終止符を打たなければ世界は救われない、というとき、指環をラインの乙女に返して悲劇を終わらせるのは、すべてを悟ったブリュンヒルデの人格と決断です。

『神々の黄昏』におけるドラマの進行の激しさ、悪のカへの信仰には、息を呑むばかりです。4時間半にわたる音楽のほとんどすべてが、あらゆる否定的な内容を極限まで描き尽くすことに集中しています。美しく崇高なものを肯定的に表現するワーグナーの音楽は言うまでもなく見事ですが、その一方で彼の音楽は、邪悪なもの、醜いものをも芸術的に表現し、極言すれば美しいとさえ思わせるほどの力をもっています。特に、ワーグナーが造形したハーゲンという登場人物に与えられた音楽は圧倒的な説得力があり、ここまで恐ろしい人物が余裕とユーモアさえ感じさせるように描かれていることに、強い衝撃を受けずにはられません。

『神々の黄昏』では、これまでの3作品で数多く出てきた示導動機がさらに駆使されて転調し変容し、聴き手は、聴き覚えのあるモチーフから、今までの物語や今後の展開を感じ取って聴くことができます。

ジークフリート殺害から葬送に至る場面は、ワーグナーらしい表現の一つの頂点です。最高の英雄が、いまわの際に『ジークフリート』第3幕のブリュンヒルデとの出会いと愛を思い出します。続く葬送行進曲ではジークフリートの英雄性が表現され、彼の両親ジークムントとジークリンデの『ワルキューレ』における出会いと愛の音楽が回顧されます。私たちの中に壮大な物語全体が蘇る、圧倒的な名場面です。

“火”と“水”による破壊を経て最後に救済を暗示する幕切れは、まさにこの世の過去現在未来のすべてが凝縮されています。そして巨大な四部作の最後は、『ワルキューレ』でジークリンデが歌いあげた“救済の動機”が再び出てきて愛による新しい世界を予感させます。私たちは、そこから何を聴き取るのでしょうか。

楽劇(オペラ)というものが表現しうる内容はここまで幅広く深い、ということ、新国立劇場の3年がかりの『指環』を通して皆様に存分に体験していただきたい、と願っております。

### ■ワーグナーの楽劇『ニーベルングの指環』

『ニーベルングの指環』とは、独立した楽劇である序夜『ラインの黄金』、第1日『ワルキューレ』、第2日『ジークフリート』、第3日『神々の黄昏』から成る壮大な作品のことである。いわゆる「リング」の名で親しまれ、演奏時間はトータルでおよそ15時間(休憩含まず)を要する空前の大作となっている。

作曲家のワーグナーが『さまよえるオランダ人』以後、『タンホイザー』、『ローエングリン』の創作を経て、まさに指がのった頃の作品である。他の作品同様、台本もワーグナー自身が手掛けた。物語は中世ドイツの叙事詩「ニーベルンゲン」を題材に北欧神話や作曲者のアイデアが盛り込まれ、「指環」をめぐる神々と様々な種族との争い、破滅、そして没落していく歴史が壮大に描かれる。「神話」「神々」といったキーワードゆえに難解に思われがちだが、幻想的で崇高な雰囲気の中にも、登場するキャラクターには我々人間の愛や欲情、権力、醜悪が巧みに投影されている。

作曲においてワーグナーは、特定の想念、人物、事物、状況などに決まった旋律(主題)をあてはめて作曲している。これは「ライトモチーフ(Leitmotif/示導動機)」と言われる作曲の技法である。ワーグナーはこれを体系化して発展させ、壮大で複雑な展開の「指環」では特に徹底して駆使し、四部作全体に張り巡らせた。

途中、およそ7年の中断期間があったにせよ、台本着手から作曲完成まで26年もの歳月を要したことから、作品への力のいれようがわかる。何しろ、ワーグナーはこの作品のために、理想の形で上演するための劇場、パイロイト祝祭劇場をつくってしまったほど。自身の意思に反して『ラインの黄金』と『ワルキューレ』は、当時のバイエルン王、ルートヴィヒII世に単独上演されてしまったものの、1876年8月、四部作一挙上演のための音楽祭「パイロイト音楽祭」で、その願いは叶えられたのだった。

今日でも「指環」を上演することは世界中の歌劇場にとって大きな挑戦であり、試金石ともされる特別な演目。新国立劇場では2000/2001シーズンから03/04シーズンに4年間かけ初の「指環」を新制作上演、08/09、09/10シーズンに再演し、15/16シーズンからは新たな「指環」を上演している。

### ■『神々の黄昏』ものがたり

【序幕】運命の女神ノルンが綱を緋なううちに切れてしまい、運命に見捨てられたと嘆く。ジークフリートとブリュンヒルデが現れ、夫は妻に指環を与えてから旅立つ。

【第1幕】ギービヒ家。家長のグンター、妹グートルルーネ、異父弟ハーゲンがジークフリートの噂をし、ハーゲンはグンターにブリュンヒルデとの結婚をしきりに勧める。そこにジークフリートがくる。忘れ薬を口にした彼は過去を忘れ、目の前のグートルルーネに惹かれる。グンターは彼に「ブリュンヒルデを自分の妻として連れてきたら、妹を嫁にやる」と告げる。ブリュンヒルデの前にヴァルトラウテが現れ、指環をラインの乙女たちに返すよう説得するが、彼女は応じない。ジークフリートが隠れ頭巾で変装してブリュンヒルデから指環を奪い、彼女を連れ去る。

【第2幕】ハーゲンの夢に父アルベリヒが現れて「指環を乙女たちに渡すな」と告げ、ハーゲンは指環奪還を誓う。ブリュンヒルデを伴って現れたグンターは、「自分と彼女、妹とジークフリートの結婚式だ」と宣言する。ブリュンヒルデは驚愕、ジークフリートの指にある指環を目にし復讐を誓う。怒りと絶望の中、彼女はハーゲンに「ジークフリートの急所が背中にある」と教えてしまう。

【第3幕】ラインの乙女たちがジークフリートに指環の恐ろしさを教えるが、彼は理解しない。ハーゲンとグンターが現れ、ハーゲンが隙をついてジークフリートの背中を槍で突き殺す。人々は遺骸をギービヒ家に運ぶ。ハーゲンは指環を要求し、グンターを殺す。ブリュンヒルデが現れ火葬のための薪を用意させ、夫の遺骸から指環を抜き取り、愛馬に跨って炎の中に突き進む。ライン河が炎に流れ込み、乙女たちは指環を取り戻し、ハーゲンは水中に引きずり込まれる。炎は天上のヴァルハル城も焼き尽くす。



**<主要キャスト・スタッフプロフィール>****【指揮】飯守 泰次郎****IIMORI Taijiro**

桐朋学園短期大学卒業。在学中に藤原歌劇団公演『修道女アンジェリカ』にてデビュー。1966年ミトロプーロス国際指揮者コンクール、69年カラヤン国際指揮者コンクールでともに第4位入賞。72年、芸術選奨新人賞とバルセロナのシーズン最高指揮者賞を受賞。これまでに読売日響指揮者、プレーメン、マンハイム、ハンブルク、レーゲンスブルクの各歌劇場の指揮者、エンスヘデ市立歌劇団第一指揮者、名古屋フィル常任指揮者、東京シティ・フィル常任指揮者、関西フィル常任指揮者を歴任。現在、東京シティ・フィル桂冠名誉指揮者、関西フィル桂冠名誉指揮者。第32回サントリー音楽賞、第54回芸術選奨文部科学大臣賞受賞。2004年11月紫綬褒章、10年旭日小綬章、12年度文化功労者、日本芸術院賞。14年より日本芸術院会員。第56回毎日芸術賞（音楽部門）受賞。新国立劇場では00年『青ひげ公の城』、08年地域招聘公演『ナクソス島のアリアドネ』、12年オペラ研修所公演『フィレンツェの悲劇』『スペインの時』、14年『パルジファル』、15年『さまよえるオランダ人』、『ラインの黄金』、16年『ローエングリン』『ワルキューレ』、17年6月『ジークフリート』を指揮。17/18シーズンには他に『フィデリオ』を指揮する予定。14年9月より新国立劇場オペラ芸術監督。

**【演出】ゲッツ・フリードリヒ****Götz FRIEDRICH**

1930年ドイツのナウムブルク生まれ。ワイマールのドイツ演劇学院卒業後、旧東ドイツ時代のベルリン・コーミッシェ・オーパーで名演出家のワルター・フェルゼンシュタインの助手を務める。72年のパイロイト音楽祭で『タンホイザー』の演出を手がけて注目を集め、81年にはベルリン・ドイツ・オペラの総監督に就任。以後、斬新なプロダクションを次々に展開して同オペラハウスを西ドイツの文化をリードする象徴として育て上げた。その演出は没後も脈々と受け継がれ、ベルリン・ドイツ・オペラにて上演されている。主な作品として、「ニーベルングの指環』『ニュルンベルクのマイスタージンガー』『タンホイザー』『さまよえるオランダ人』『ローエングリン』『パルジファル』『ばらの騎士』『アラベッラ』『トスカ』『ラ・ボエーム』『トゥーランドット』『アイダ』『ファルスタッフ』『仮面舞踏会』『椿姫』『フィガロの結婚』『エウゲニ・オネーギン』『ヴォツェック』などがあり、新国立劇場においては、2000年11月に『青ひげ公の城』が上演された。2015/2016シーズンより「ニーベルングの指環」4部作が上演されている。2000年12月逝去。

**【ジークフリート】ステファン・グールド****Stephen GOULD**

アメリカのヴァージニア州生まれ。これまでにウィーン国立歌劇場、ザクセン州立歌劇場、パイロイト音楽祭、バイエルン州立歌劇場、メトロポリタン歌劇場などに出演。パリ、ロンドン、ローマ、パレルモ、ベルリン、ハンブルクなどヨーロッパ各地の歌劇場で活躍。『フィデリオ』フロレスタン、『ローエングリン』『タンホイザー』『ジークフリート』『パルジファル』タイトルロール、『神々の黄昏』ジークフリート、『トリスタンとイゾルデ』トリスタンなどをレパートリーとする。最近ではパイロイト音楽祭、ベルリン・ドイツ・オペラ、ハンブルク州立歌劇場の『トリスタンとイゾルデ』、ウィーン国立歌劇場『パルジファル』『ピーター・グライムズ』『トリスタンとイゾルデ』、ザクセン州立歌劇場『ジークフリート』『オテロ』、ベルリン・ドイツ・オペラ『タンホイザー』、バイエルン州立歌劇場『トリスタンとイゾルデ』などに出演。今後の主な予定に、パイロイト音楽祭で『トリスタンとイゾルデ』に出演予定。新国立劇場では2006年『フィデリオ』フロレスタン、09年『オテロ』タイトルロール、10～11年『トリスタンとイゾルデ』トリスタン、15年『ラインの黄金』ローゲ、16年『ワルキューレ』ジークムント、17年6月『ジークフリート』タイトルロールに出演して絶賛を博した。15年から開始した「ニーベルングの指環」全4作品に出演する。18年5、6月『フィデリオ』フロレスタンにも出演予定。

**【ブリュンヒルデ】ペトラ・ラング****Petra LANG**

フランクフルト生まれ。ダルムシュタットとマインツでヴァイオリンと声楽を学ぶ。バイエルン州立歌劇場のオペラスタジオに所属し、間もなく世界各地の著名な歌劇場に出演するようになる。早くからワーグナーに取り組み、著名な歌劇場から多数のオファーを受けている。パイロイト音楽祭、ミラノ・スカラ座、英国ロイヤルオペラ、バイエルン州立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、チューリヒ歌劇場、ネザーランド・オペラ、シカゴ・リリック・オペラ、サンフランシスコ・オペラなど世界各地で、『ワルキューレ』『ジークフリート』『神々の黄昏』のブリュンヒルデ、『ローエングリン』オルトルート、『パルジファル』クンドリー、『タンホイザー』ヴェーヌス、『ワルキューレ』ジークリンデなどを歌っている。最近では、パイロイト音楽祭『トリスタンとイゾルデ』イゾルデ、ウィーン国立歌劇場で『トリスタンとイゾルデ』イゾルデ及び『ワルキューレ』『ジークフリート』『神々の黄昏』ブリュンヒルデなどに出演。新国立劇場では2016年『ローエングリン』オルトルートに出演した。

**【グンター】アントン・ケレミチエフ****Anton KEREMIDTCHIEV**

ブルガリア出身。トリエステのヴェルディ歌劇場でバス歌手としてオペラ・デビュー後、パレルモのマッシモ歌劇場、ペーザロのロッシーニ・フェスティバルなどに出演。1997年にバリトンに転向し『オテロ』イアーゴで成功を収める。98～03年ダルムシュタット州立歌劇場との専属契約を経て、03年よりフリーの歌手として活躍。これまでに、フィンランド国立歌劇場『カルメン』エ

## 報道用資料

スカミーリョ、ハンブルク州立歌劇場『椿姫』ジェルモン、フランクフルト・オペラ『トリスタンとイゾルデ』クルヴェナール及び『ローエングリン』テルラムント、ベルリン・ドイツ・オペラ『マクベス』タイトルロールなどに出演している。16/17シーズンはブラウンシュヴァイク歌劇場『リゴレット』タイトルロール、スロヴァキア国立オペラ『シモン・ボッカネグラ』タイトルロール、ヴィースバーデン歌劇場『椿姫』ジェルモンに出演。新国立劇場では14年『死の都』フランク／フリッツに出演した。

### 【ハーゲン】アルベルト・ペーゼンドルファー

Albert PESENDORFER

オーストリア生まれ。リンツ・ブルックナー音楽大学とウィーン国立音楽大学で声楽とフルートを学んだ。2006年から12年までハノーファー州立歌劇場の第一専属歌手として主要な役で出演。12/13シーズンよりベルリン・ドイツ・オペラの第一専属歌手となり、『パルジファル』グルネマンツ、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ハンス・ザックス、『トリスタンとイゾルデ』マルケ王、『ばらの騎士』オックス男爵、『タンホイザー』領主ヘルマン、『ローエングリン』ハインリヒ王、『さまよえるオランダ人』ダーラント、『ラインの黄金』ファフナー、『リゴレット』スparaフチーレ、『ドン・カルロ』宗教裁判長、『マクベス』バンクォー、『エレクトラ』オレストなどに出演している。このほか14/15シーズンはリンツ歌劇場『ワルキューレ』フンディング、『神々の黄昏』ハーゲン、15/16シーズンにはヴィースバーデン歌劇場で『さまよえるオランダ人』ダーラントなどに、16年バイロイト音楽祭『神々の黄昏』ハーゲンに出演。16/17シーズンにはベルリン・ドイツ・オペラで『ラインの黄金』ファーゾルト、『神々の黄昏』ハーゲン、ヴィースバーデン歌劇場で『ラインの黄金』ファーゾルト、『ワルキューレ』フンディング、『神々の黄昏』ハーゲンなどに出演。新国立劇場には16年『ワルキューレ』フンディングに出演した。

### 【ヴァルトラウテ】ヴァルトラウト・マイヤー

Waltraud MEIER

ドイツ・ヴェルツブルク出身。1976年、ヴェルツブルク歌劇場『カヴァレリア・ルスティカーナ』ローラでオペラ・デビュー後、マンハイム、ドルトムント、シュトゥットガルトなどで活躍。83年バイロイト音楽祭『パルジファル』クンドリーで大成功を収め、英国ロイヤルオペラ、メトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座、パリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場などに次々と出演。バイロイト音楽祭では93年までクンドリーに出演、93年～99年『トリスタンとイゾルデ』イゾルデ、2000年『ワルキューレ』ジークリンデに出演し、今日の最も重要なワーグナー歌手としてゆるぎない地位を確立した。ほかに『ドン・カルロ』エボリ公女、『アイダ』アムネリス、『カヴァレリア・ルスティカーナ』サントウツァ、『フィデリオ』レオノーレ、『ヴォツェック』マリーなどもレパートリーとし、知性あふれるドラマティックな表現で称賛を得ている。最近では、バイエルン州立歌劇場、ザクセン州立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、メトロポリタン歌劇場などで『エレクトラ』クリテムネストラ、ウィーン国立歌劇場『ワルキューレ』ジークリンデ、『神々の黄昏』ヴァルトラウテなどに出演している。バイエルン州立歌劇場及びウィーン国立歌劇場宮廷歌手。新国立劇場初登場。



平成29年度(第72回)文化庁芸術祭オープニング・オペラ公演  
新国立劇場 開場20周年記念公演  
新国立劇場 2017/2018 シーズンオペラ オープニング公演  
ワーグナー 楽劇「ニーベルングの指環」第3日

# 神々の黄昏

【新制作】

【序幕付全3幕<ドイツ語上演/字幕付>】

【公演日程】 2017年10月1日(日)14:00/4日(水)16:00/7日(土)14:00/  
11日(水)14:00/14日(土)14:00/17日(火)16:00

【会場】新国立劇場 オペラパレス

【チケット料金】 S:27,000円・A:21,600円・B:15,120円・C:8,640円・D:5,400円・Z:1,620円

【前売開始】 2017年6月18日(日)

指揮	飯守泰次郎
Conductor	IIMORI Taijiro
演出	ゲッツ・フリードリヒ
Production	Götz FRIEDRICH
美術・衣裳	ゴットフリート・ピルツ
Set and Costume Design	Gottfried PILZ
照明	キンモ・ルスケラ
Lighting Design	Kimmo RUSKELA
ジークフリート	ステファン・グールド
Siegfried	Stephen GOULD
ブリュンヒルデ	ペトラ・ラング
Brünnhilde	Petra LANG
アルベリヒ	島村武男
Alberich	SHIMAMURA Takeo
グンター	アントン・ケレミチエフ
Gunther	Anton KEREMIDTCHIEV
ハーゲン	アルベルト・ペーゼンドルファー
Hagen	Albert PESENDORFER
グートルレーネ	安藤赴美子
Gutrune	ANDO Fumiko
ヴァルトラウテ	ヴァルトラウト・マイヤー
Waltraute	Waltraud MEIER
ヴォークリンデ	増田のり子
Woglinde	MASUDA Noriko
ヴェルグンデ	加納悦子
Wellgunde	KANOH Etsuko
フロスヒルデ	田村由貴絵
Flosshilde	TAMURA Yukie
第一のノルン	竹本節子
Erste Norn	TAKEMOTO Setsuko
第二のノルン	池田香織
Zweite Norn	IKEDA Kaori
第三のノルン	橋爪ゆか
Dritte Norn	HASHIZUME Yuka
合唱指揮	三澤洋史
Chorus Master	MISAWA Hirofumi
合唱	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽	読売日本交響楽団
Orchestra	Yomiuri Nippon Symphony Orchestra
協力	日本ワーグナー協会
Cooperation	Richard-Wagner-Gesellschaft Japan
芸術監督	飯守 泰次郎
Artistic Director	IIMORI Taijiro

本公演は、フィンランド国立歌劇場(ヘルシンキ)の協力により上演されます。

## 報道用資料

予定上演時間: 約6時間(休憩含む)

『神々の黄昏』特設 WEB サイト(鑑賞に役立つコラム、動画続々掲載! )  
<http://www.nntt.jac.go.jp/opera/gotterdammerung/>

【チケットのご予約・お問い合わせ】 新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00~18:00)  
新国立劇場Webボックスオフィス <http://pia.jp/nntt/>

【チケット取り扱い】チケットぴあ、イープラス、ローソンチケット、東京文化会館チケットサービス ほか

\* **Z席 1,620円**: Z席 42席とZ(音のみ)席 4席は、公演当日朝 10時より、新国立劇場 Web ボックスオフィスおよびセブン-イレブン、サークル K・サンクスの端末操作により全席先着販売します。1人1枚。電話予約不可。

\* **当日学生割引(50%)**: 公演当日残席がある場合、D席・Z席を除く全ての席種について 50%割引で販売。要学生証。電話予約不可。

\* 新国立劇場では、ジュニア割引(中学生以下 20%)、高齢者割引(65歳以上 5%)、障害者割引(20%)、学生割引(5%)など各種割引サービスをご用意しています。

\* 就学前のお子様のご同伴・ご入場はご遠慮ください。

\* **U25 優待メンバーズ/U39 オペラ優待メンバーズ(25歳以下/39歳以下対象)**: 青少年やふだん劇場に足を運ぶ機会の少ない世代の方々に舞台芸術に親しんでいただくため、お得な優待チケットの情報やゲネプロ見学のご案内などをメールでお届けする特別プランです。

・初日の2週間程度前に残席がある場合、新国立劇場の主催公演を下記の優待料金でご提供いたします。

U25 優待メンバーズ→オペラ公演S・A席が 5,000円

U39 オペラ優待メンバーズ→オペラS・A席が 11,000円(クラブ・ジ・アトレ会員は 10,000円)

・U25 優待メンバーズの方を対象に、「青少年のためのオペラ・ゲネプロ見学会」を実施。公演直前のゲネプロ(最終舞台稽古)に抽選でご招待します。(対象演目は限定されます。)

新国立劇場 WEB サイト <http://www.nntt.jac.go.jp>

東京都渋谷区本町 1-1-1 京王新線新宿駅より 1 駅、初台駅直結。



**報道用資料**

★本演目は新制作ですが、フィンランド国立歌劇場(ヘルシンキ)の協力により上演されます。  
フィンランドで上演された舞台写真を宣材としてご提供できます。



【1】 Photo: Karen Stuke



【2】Photo: Karen Stuke



【3】Photo: Karen Stuke



【4】Photo: Karen Stuke



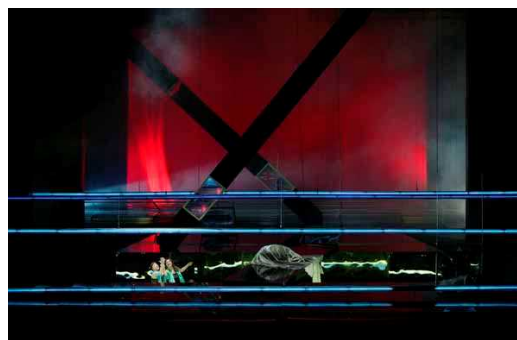
【5】Photo: Stefan Bremer



【6】Photo: Karen Stuke



【7】Photo: Stefan Bremer



【8】Photo: Karen Stuke